

きらきら体操 11

the 0123

アートチャイルドケア
きらきら体操 2011年 11月

- ◎知育 からだを動かすことで
大脳の動きが活発になる
- ◎体育 運動能力が育つ
- ◎愛情 触れ合うことで心の安定を図る
- ◎礼節 礼儀作法が身に付く

年齢別目標

- 1歳児:自分の体を自分でコントロールする
(いも虫ゴロゴロ)
- 2~3歳児:前回り・風せんドッチボール
- 4~6歳児:開脚跳び・ドッチボール



1歳児

ねらい:空間認知・操作系運動スキルの発達 「コロコロボールキャッチ」

転がってくるボールを受け止める運動

まずは『ボールに慣れて受け止めれる』ようにしましょう。
先生は子どもに「行くよー」と声を掛けてから、ボールを転がしてください。(①②)

子どもは自分の正面に転がってくるボールをキャッチします。
(③④)速いボールのキャッチは難しいので、ゆっくりのボールをキャッチすることからはじめましょう。

★楽しさUP★

慣れてきたら、ボールの速さを変えてみたり、いろんな方向から転がしたりと工夫してみましょう。



●ボール行くよー



●子どもの正面にボールを転がす



●ボールが来たよー



●両手でキャッチ出来たね(拍手)

2~6歳児

ねらい:空間認知・操作系運動スキル・脚力をつける 「転がしキャッチ」

転がったボールを追いかけて キャッチする運動



まずはゆっくり転がっているボールを追いかけてキャッチすることからはじめてください。

慣れてきたら、ボールの速さを変えたり、いろんな方向から転がしたりしてみましょう。



先生の隣に子どもが立ちます。
「はい!」の掛け声で
ボールを転がしましょう。

★楽しさUP★

ボールを何かに見立てて遊ぶのもおもしろいですね。
(例えば、「これは爆弾です。壁にあたると爆発するので、壁につく前にキャッチしてくださいね」など)
ボールを別のものに見立てることで、キャッチすることに目標を持って取り組めるようになってきます。
ぜひいろんなアイデアを出して楽しみながら行いましょう。

4~6歳児

Let's チャレンジ編

転がるボールを手でキャッチする以外に『足でキャッチ』『お尻でキャッチ』『お腹でキャッチ』『おでこでキャッチ』というふうに、身体のいろんな部位を使ってキャッチしてみましょう。

考える力や予測する力を育てることに繋がりますよ。



子どもたちのやる気を育むために、まずは“ボールがキャッチできること”を目標にサポートしてあげましょう。